都道府県番号	４０
都道府県名	福　岡　県

（別紙様式）　　（①☑　②☑　③□）

Ⅰ．学校名及び規模

遠賀郡芦屋町立芦屋中学校							
	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数	
学級数	４	５	４	０	１３	２６	
生徒数	１５４	１６７	１５２	０	４７３		

Ⅱ．実践研究の概要（主題（テーマ）及び設定の趣旨）

・主 題

「『確かな学力』の向上を図る教育活動の工夫改善」

副主題

～わかる授業を目指した授業改善と
一人一人の学びに応じた選択教科の推進・充実を通して～

・主題設定の理由

「生きる力」を育む場としての学校教育の在り方が、教育改革に関わる答申等の中にも示されており、それらを受けた新学習指導要領が本年度から完全実施されている。この「生きる力」を育むための指導の重点が「学びのすすめ」に示されており、その中に「確かな学力」の向上を図ることの重要性が挙げられている。

「確かな学力」の向上を図るためには、生徒にとって「わかる授業」を展開していく必要がある。そのために、学校は、一人一人の生徒の学びの環境を整備・充実していく必要があり、「２１世紀の教育新生プラン」においても、このような学校づくりを支援するために、「確かな学力」の向上に向けた条件整備を図ることが提言されているとこである。このように、本主題は、学校教育活性化を図る上で大きな意義があると考え、実践研究に取り組むこととした。

Ⅲ．実践研究の内容について

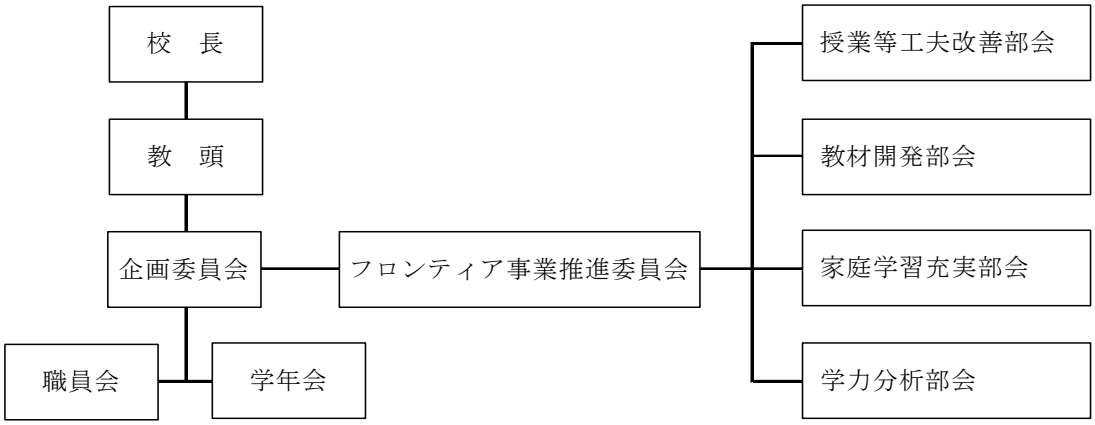
（ｉ）研究体制の工夫

本校では、「確かな学力」の向上を図るため、以下のように、各部の内容の明確にし、研究体制を組織編成している。

ア　各部会の内容

部　　会	内　　容
授業等工夫改善部会	・ 少人数指導による授業の提案 ・ 個別指導や繰り返し指導法等、指導方法の工夫改善の提案 ・ 体験的、問題解決的な学習等の効果的な導入の在り方の提案 ・ 長期休業中の補充学習等の立案
教材開発部会	・ 習熟度別少人数授業における効果的な補充教材の開発 ・ 習熟度別少人数授業における効果的な発展教材の開発 ・ 副教材の研究と選定
家庭学習充実部会	・ 自学ノートの導入と取り組み内容の立案 ・ 宿題の目的の明確化と推進 ・ 家庭学習の啓発
学力分析部会	・ 年間２回の学力実態調査の立案と企画 ・ 調査結果の分析

イ　組織図



（ⅱ）実践研究の内容

ア　研究の目標

生徒の「自ら学び自ら考える力」と「基礎的・基本的内容の確実な定着」のため、生徒の求める授業や各教科の本質に根ざした「わかる授業」への工夫改善に取り組むとともに、生徒一人ひとりの学びに応じる選択教科を設定する。これらの推進・充実を通して、生徒の「確かな学力」の向上を図るための効果的な教育活動のあり方を究明する。

イ　「わかる授業」への工夫改善の取り組み

各教科の授業改善の視点として、生徒にとって「わかる授業」づくりを推進することを目指した。そのための工夫改善の手立てとして、

① １単位時間での指導の重点を明らかにし、生徒に学習のめあてを明示する。
② 個に応じた指導の充実を図るために、少人数指導や TT による指導の充実を図る。
③ 体験的な学習や問題解決的な学習の積極的な導入を図るとともに、そう効果的な活用の方途を探る。

このような工夫改善を取り入れた授業を展開していくことにより、生徒一人ひとりが学習のめあてや内容を理解し、授業を通して学ぶ力の習得を図る「わかる授業」への授業改善を実践してくことができると考え、実践研究に取り組んだ。

ウ　選択教科の実践

選択教科は、補充コースを柱として基礎・基本の定着を図るとともに応用力を高めたり、また、興味・関心に応じて内容を深める学習を支援するために、発展的・自主的な学習の場を開設した。そして、生徒の自主決定により選択することを通して、生徒の自主性や自己教育力を高めることができるのでは考え、以下の４３コースを開設し選択授業を実践した。

教科	１年生コース	２年生コース	３年生コース	教科	２年生コース	３年生コース
国語	基礎２	基礎２	基礎１発展１	音楽	発展１	発展１
数学	基礎２	基礎２	基礎１	美術	発展１	発展１
社会		基礎１発展１	基礎２発展２	保体	基礎１発展１	発展２
理科		基礎２	基礎２発展２	技・家	発展２	発展２
英語	基礎２	基礎１発展１	基礎２発展２	計	基礎２３	発展２０

（ⅲ）成果と課題

成　果

○　わかる授業づくりの手立てとして、本研究で積極的に導入した「少人数指導」や「TT による指導」について、アンケートを実施し分析した。その結果、「学習内容の理解度」では、77%以上の生徒が十分理解できたと答えている。生徒は、「少人数だから分かるまで教えてくれる」や「先生が２人いるからたくさん教えてもらえる」などの理由を挙げている。このことからも本研究で取り組んだ実践が「わかる授業」づくりの手立てとして効果的であったと考えられる。

○　個に応じた指導の視点から「習熟度別」の学習集団を編成した。基礎コースを選択した生徒の感想は、「とても分かりやすかった」や「あせらず自分のペースでできた」。また、発展コースを選択した生徒の感想は、「くわしく理解することができた」や「自分で問題を選びながら授業を進められたのが良かった」などが示されている。このことからも、一人一人の学びに応じた指導の充実を図る上で効果をあげることができたと考えられる。

○　各実践における「わかる授業」のための工夫改善による他の感想では、基礎コースの生徒から「少ない時間でいっぱい覚えた」や「よく分かった。復習のために余分にプリントをもらった」など、「わかった」ことに対する満足感や喜びを生み出すことができた。発展コースの生徒の感想では、「いろいろ考えることができた」「途中で授業が終わったので次の時間が楽しみ」など、授業への興味・関心・意欲を高めることができた。

課　題

○　今回の「少人数指導」や「TT による指導」の実践では、それぞれのコースで大きな成果を上げることができた。しかし、さらに学習の効果を上げるためには、コース別の学習後に互いのコースの学習の成果を発表したり、確認したりするなどの交流しあう場と時間の設定を工夫することが大切である。それぞれの学習を確認することは、学習内容が個に応じてフィードバックされ、「確かな学力」の定着するのではないかと考えられる。

○　本研究の中心となった「少人数指導」では、学習集団を編成する際に、生徒自身による自己選択を基本とした。そのため、十分な学力をもちながら「基礎コース」を選択したり、友達同士で同じコースを選択した生徒も見受けられた。

　このことから、日頃の教育活動を通して普段から自己評価の方法と場面を工夫し、生徒一人一人が自分自身に合った適切なコース選択ができる能力を高める必要がある。このことは、生徒の自己選択による習熟度別の学習集団を編成するにあたって、特に留意しなければならないところである。

（ⅳ）成果の普及方策

○　公開授業と実践交流会への他校からの積極的な参加を働きかける。
○　具体的な指導体制と指導方法や教材開発等の普及や各学校の学力向上への取り組みの啓発を推進するため、ホームページの充実を図る。
○　官内の教科主任会や教務主任会等を通して、本校の研究の取り組みの啓発に努める。
○　教科等研究会や研究サークルへ積極的に参加し、本校の実践研究の啓発に努める。

（ⅴ）その他

○　長期休業中の補充教室を実施(９日間、延べ１,１４８名の生徒が参加)。
○　各学年の生徒実態に応じた放課後の１０分間学習を実施。